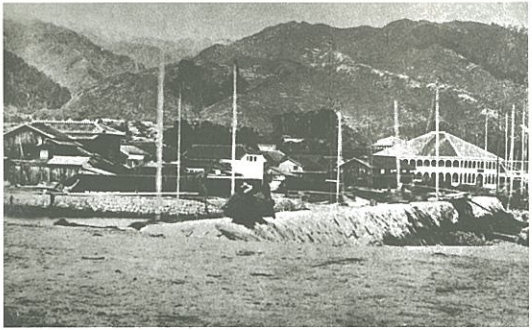


明治３～10年頃の宇治川波止場
草創の運上所には、輸出入貨物の通関業務のほか、波止場の建設などの業務があった。第四波止場（後の弁天波止場）と呼ばれたこの波止場は、慶応４年４月運上所により建設された。

明治中期の外国桟橋
当時加納町海岸に設けられた唯一の外国航路船繋留桟橋で、神戸桟橋会社により明治17年11月建設された。（長さ147.5ｍ、幅12.6ｍ、水深干潮面以下約６ｍ）イギリスの船社Ｐ＆Ｏやフランスの船社ＭＭと桟橋使用料１隻当たり50ドルとする契約が結ばれた。

明治12年頃の第一波止場　（現在の京橋付近）
居留地13・14番、キルビー商会の屋根から撮影。手前の道路は京町通りで左端に上部が少し見える建物は、旧税関庁舎。

明治中期の諏訪山から見た神戸市街　（横浜開港資料館蔵）
明治22年４月１日神戸市制を実施。当時面積21平方キロ、人口134,704人であった。まだ中心部に田園や木立を多く残

明治中期のメリケン波止場

波止場ができたときは長さ30mにも足りない荷揚場で第二波止場が正式な名称であるが、アメリカ領事館前にあったところからメリケン波止場と呼ばれるようになった。

している。

石積みの波止場

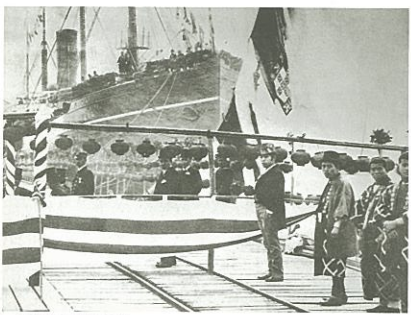
明治時代以前の波止場は石積みで、干潮時には貝や魚を獲る市民の姿が見られた。

明治中期の雑居地海岸通り　（現国産波止場付近）

慶応4年3月、すでに来日していた外国人が居留地の未完成に不満を訴えたことから、政府は外国人が居留地外で居住することを認めた。これが雑居地で、旧生田川から宇治川の範囲にあった。

オリエンタルホテル　（神戸市立博物館蔵）
明治15年京町筋に「居留地ホテル」として開業、同26年京町筋西側に移転「オリエンタルホテル」と改称、同40年海岸通へ移転。六甲山の園組、イギリス人日・グルームらが経営した。

外国商館に勤める日本人
明治25年頃できたデラカムブ商会に勤める日本人番頭、山高シャッポが目立つ。同商会は薬品、織物等の輸入、花ムシロ、だん通等の輸出を取り扱った。居留地は、明治32年廃止となった。



欧州航路第１船就航
明治29年日本郵船は欧州航路に定期船を進出させることを決めた。同年３月15日横浜を出港した第１船土佐丸（J.B.マクミラン船長、5,402トン）が同３月19日神戸へ入港した。当日、小野浜桟橋で披露会が催され、整20日1,850トンの貨物と5人の客とともに欧州へ向かった。

コンノート公来神記念歓迎会　（グルーム氏個人アルバム、神戸市立博物館蔵）
明治39年３月、イギリス、ビクトリア女王第３王子、アーサー・オブ・コンノート公が天皇ヘガーター勲章奉呈のため来日。鹿児島で遊んだ後、上京の途中乗艦ダイアデム号で神戸へ立ち寄られた。